

第三者評価結果（児童自立支援施設）

1 支援

(1) 支援の基本	第三者 評価結果
① 子どもを理解・尊重し、その思い・ニーズをくみ取りながら、子どもの発達段階や課題に考慮した上で、子どもと職員との信頼関係の構築を目指している。	b
② 子どものニーズをみたすことのできる日常的で良質なあたりまえの生活を営みつつ、職員がモデルとなることで、子どもの協調性を養い、社会的ルールを尊重する気持ちを育てている。	a
③ 集団生活の安定性を確保しながら、施設全体が愛情と理解のある雰囲気の中に包まれ、子どもが愛され大切にされていると感じられるような家庭的・福祉的アプローチを行っている。	a
④ 発達段階に応じて食事、睡眠、排泄、服装、掃除等の基本的な生活習慣や生活技術が習得できるよう支援している。	a
⑤ 多くの生活体験を積む中で、子どもがその問題や事態の自主的な解決等を通して、子どもの健全な自己の成長や問題解決能力を形成できるように支援している。	b
⑥ 子どもの行動上の問題を改善するために、自ら行った加害行為など向き合う取組を通して自身の加害性・被害性の改善や被害者への責任を果たす人間性を形成できるように支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>児童自立支援プログラムは、入園から退園準備まで分かりやすく体系的に明示している。職員は1日24時間子どもたちに寄り添い、支援をしている。毎年数回挑戦する千メートル級への山岳登山は、自然を通し学ぶ場として学園の年中行事に定着している。また、廊下で出会った子どもたちから「こんにちは」と明るい挨拶を受け、職員の適切な支援が伺えた。</p>	

(2) 食生活	第三者 評価結果
① 団らんの中として和やかな雰囲気の中で、食事をおいしく楽しく食べられるよう工夫し、子どもの嗜好や栄養管理にも十分な配慮を行っている。	b
② 子どもの生活時間にあわせた食事時間の設定を含め、子どもの発達段階に応じた食習慣の習得など食育を適切に行っている。	a
③ 自立に向けた食育への支援を行っている。	a
(3) 衣生活	
① 衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを提供し、衣習慣を習得できるよう支援している。	b
(4) 住生活	
① 居室等施設全体が、子どもの居場所となるように、安全性、快適さ、あたたかさなどに配慮したものにしている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>自然に囲まれた環境の中で、日課に沿って規則正しい生活をしており、居室等も限られた中で工夫され、清潔・安全性に配慮している。併設の分校での調理実習や学園で収穫した野菜を利用した収穫祭を行っている。</p> <p>なお、買い物実習時に給食の食材調達の体験を加えるなど、さらに食育に繋がる取り組みを期待したい。</p> <p>衣服は必要数確保され、同時に物を大切に作る心が養われるよう支援がされている。退園後を見据え、TPOや年齢に合わせた服装の組み合わせ等が伴うよう、さらなる支援を期待したい。</p>	

(5) 健康と安全	第三者 評価結果
① 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気等）や安全について自己管理ができるよう支援している。	a
② 医療機関と連携して一人一人の子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	a
(6) 性に関する教育	
① 子どもの年齢、発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>規則正しい日常生活を通して、子どもたちの健康や安全への自己管理が徹底している。職員が常に寄り添い生活する中で、子どもの変化・異常を早期に把握できる体制にある。また、心理療法担当職員を中心に計画的な性教育を行っており、分校においても学習機会がある。</p>	

(7) 行動上の問題に対する対応	第三者評 価結果
① 子どもが暴力、不適応行動、無断外出などの行動上の問題を行った場合には、関係のある子どもも含めて適切に対応している。	a
② 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体に徹底している。	b
③ 虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている。	b
(8) 心理的ケア	
① 被虐待児など心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>入所の経緯や学園での生活状況を的確に把握し、全職員体制で対処している。3年近く子どもの無断外出がないことから、落ち着いた生活を送ることができるよう支援がされていることが伺えた。ケース検討会を定期的に行い、心理療法担当職員を中心に個別ケアを行っている。また、必要により精神科嘱託医との連携も図っている。今後は、児童自立支援専門員等も心理に関する専門研修を受ける機会を設け、子どもへの個別支援向上につながることを期待したい。</p>	

(9) 主体性、自律性を尊重した日常生活	第三者 評価結果
① 日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちの課題として主体的に考えるよう支援している。	b
② 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念や生活技術が身につくよう支援している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>子どもたちの自律性を養うため、切り絵、陶芸作品作りなど余暇的プログラムを用意している。施設の性格上、子どもの主体的な行動をどこまで尊重するか苦慮されているようなので、職員共通の項目として引き続き検討されることを期待したい。</p> <p>また、月1回、小遣いでの買い物実習を行っており、決められた金額の中で工夫し使うことを学ぶ機会を設けている。これらについても、今後も地道に取り組み積み上げられることを期待したい。</p>	

(10) 学習支援、進路支援、作業支援等	第三者 評価結果
① 学習環境の整備を行い、個々の学力等に応じた学習支援を行っている。	a
② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
③ 作業支援、職場実習や職場体験等の機会を通して、豊かな人間性や職業観の育成に取り組んでいる。	b
④ 施設と学校との親密な連携のもとに子どもに対して学校教育を保障している。	a
⑤ スポーツ活動や文化活動を通して心身の育成を図るとともに、忍耐力、責任感、協調性、達成感などを養うように支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>分校が併設されている。子どもたちの一貫した自立支援に向けて共通理解を図るため、毎月学園と分校との運営委員会を行っている。寮に参考図書を備え、夜間等では個々の習得状況に沿った学習プリントを用意し学習指導をしている。毎日練習を積み、郡の駅伝大会に挑戦し、学園交流ソフトボール大会などにも参加している。また職場見学、農業実習、進路相談を行っている。</p> <p>事前アンケートの「職員は、あなたが成長していくために取り組む目標、あなたの将来(学校や仕事)について話を聞いてくれますか」という問いにはすべての子どもが「はい」と回答しており、子どもと十分に話し合っている様子が確認できた。今後も創意工夫ある支援を期待したい。</p>	

(11) 継続性とアフターケア	第三者評 価結果
① 措置変更又は受入れに当たり継続性に配慮した対応を行っている。	a
② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰後の支援を行っている。	b
③ 子どもが安定した社会生活や家庭生活を送ることができるよう、通信、訪問、通所などにより、退所後の支援を行っている。	b
<p>(12) 通所による支援</p> <p>① 地域の子どもの通所による支援を行っている。</p> <p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>児童相談所、分校、原籍校、保護者等と協議する復帰支援会議を設けている。退所後も来園し近況報告や相談を受ける体制を整え、ゲストハウスでは宿泊できるよう配慮している。電話や手紙で近況報告を寄せる子どもが増えているとのことなので、今後もつながりが続くよう期待したい。</p> <p>(地域の子どもの通所支援については実施していないため、全社協「第三者評価基準 評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点」に基づき評価外とします)</p>	

2 家族への支援

(1) 家族とのつながり	第三者 評価結果
① 児童相談所と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	a
② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	b
<p>(2) 家族に対する支援</p> <p>① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。</p> <p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>定期的また随時に家族との面談の場を設けており、また親子で宿泊できるようゲストハウスを用意している。ゲストハウスをより活用し、親子関係の再構築がさらに進むよう期待したい。一時帰宅は年3回、児童相談所と協議し行っている。</p>	

3 自立支援計画、記録

(1) アセスメントの実施と自立支援計画の策定	第三者 評価結果
① 子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、アセスメントに基づき、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	a
② アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	a
③ 自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	a
(2) 子どもの支援に関する適切な記録	
① 子ども一人一人の支援の実施状況を適切に記録している。	a
② 子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	a
③ 子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>子どもの自立支援は業務最大の責務であることが組織に浸透しており、児童相談所等の情報を基に適切なアセスメントを行っている。また、自立支援計画の策定は施設長以下関係職員と児童相談所職員（児童福祉司・心理士）、分校の教頭等や原籍校の主任や担任など、関係者が関与して策定するなどして取り組んでいる。なお、自立支援計画の見直しを定期的実施し、記録も適切であり、保護者等の関係情報も職種を越えて共有している。</p>	

4 権利擁護

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果
① 子どもを尊重した支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	a
② 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の支援において実践している。	a
③ 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	a
④ 特別プログラムなど子どもの行動などの制限については、子どもの安全の確保等のために、他に取るべき方法がない場合であって子どもの最善の利益になる場合のみ、適切に実施している。	b
⑤ 子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	a
⑥ 子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。	a
(2) 子どもの意向や主体性への配慮	
① 子どもの意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、支援内容の改善に向けた取組を行っている。	b
② 子ども自身が自分たちの生活全般について自主的に考える活動を推進し、施設における生活改善や自立する力の伸長に向けて積極的に取り組んでいる。	b
③ 施設が行う支援について事前に説明し、子どもが主体的に選択（自己決定）できるよう支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>各種レベルの会議（申し送り、運営委員会、ケース検討会、職員会議、復帰支援会議等）を積み上げ、個々の児童に応じた支援活動に取り組んでいる。また、学校教育との連携に配慮し、児童自立支援専門員等の職員が子どもの授業に付き添ったり、教員が子どもの寮生活を観察するなど、両者が連携して切れ目のない支援を行っている。なお、子どもの意向や主体性への配慮では施設の担任職員のほかに、第三者的な心理療法担当職員等が適宜介在するなど、客観性を担保する仕組みを作り、児童自身による生活のふり返りや生活改善、自立する力の伸張に結びつけている。児童の年度中途の入退園で、常に施設内の雰囲気や指導環境が変わりやすい中であって、今後も教育と福祉及び職種間が連携して地道に取り組まれることを期待する。</p>	

(3) 入所時の説明等	第三者 評価結果
① 子どもや保護者等に対して、支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	a
② 入所時に、施設で定めた様式に基づき支援の内容や施設での約束ごとについて子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
(4) 権利についての説明	
① 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b
(5) 子どもが意見や苦情を述べやすい環境	
① 子どもが相談したり意見を述べたりしたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	a
② 苦情解決の仕組みを確立し、子どもや保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	a
③ 子ども等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。	a
(6) 被措置児童等虐待対応	
① いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a
② 子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b
(7) 他者の尊重	
① 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>入所時に子ども並びに保護者にパンフレット等で支援の内容を丁寧に説明している。意見箱の利用や意見等をいつでも述べるができること、さらに窓口となる幹部職員（課長職）の明示のほか、相談室も備えている。体罰等の禁止に関しては倫理マニュアル等で規定して職員に周知している。また、各種行事（マラソン大会、地域福祉祭り、生活発表会、山岳登山等）の実施を通じて、自己鍛錬と他者を尊重する心を育むなどの取り組みも積極的に行っている。なお、暴力や言葉による脅かし等不適切なかかわりの防止について、現実はおもとの関係で試行錯誤を繰り返す中から両者（子どもと職員）の信頼関係が醸成され、はじめて自立支援の成果が生まれることも理解できるので、今後も適切な関わりを求めて地道に取り組まれることを期待する。</p>	

5 事故防止と安全対策

	第三者 評価結果
① 事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	a
② 災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	a
③ 子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>事務分掌（運営機構図）で生活指導の中に非常防災や健康管理業務を明示し、日々の健康管理のほか、医師の協力を得て健康診断を実施している。また、避難・火災消火訓練等も消防署と連携して定期的実施するなど非常時に備えている。利用児童数に比べて敷地が広く、本館棟を除き、平屋建てで構成され、安全な環境に恵まれている。夜間も一寮あたり指導職員が2名常勤するなど、子どもの事故防止と安全確保に配慮が行き届いている。その他、外部からの不審者等の不測の事態に備え、地元警察署等への連絡網も明示、周知されている。</p>	

6 関係機関連携・地域支援

(1) 関係機関等との連携		第三者 評価結果
①	施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	a
②	児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	a
(2) 地域との交流		
①	子どもと地域との交流を大切に、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	a
②	施設が有する機能を、地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	b
③	ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	b
(3) 地域支援		
①	地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	c
②	地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>児童相談所等関係機関との連携を適切に確保し、自立支援計画作りや事例検討等を行っている。児童の社会参加(体験)を促進するため、近隣の福祉施設と協力して福祉祭りを実施する等地域交流にも積極的に取り組んでいる。また、郡内の民生児童委員協議会や教育委員会の生徒指導主事等の研修会には、施設を提供して情報交換等も積極的に行っている。なお、県内唯一の専門施設であり、その専門性をさらに生かした地域支援の方策等について今後取り組まれることを期待する。</p>		

7 職員の資質向上

		第三者 評価結果
①	組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	b
②	職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	b
③	定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	b
④	スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上を支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>スーパービジョン研修に参加された施設長等が、職員に対し専門職として資質向上するための、管理的機能・教育的機能・支援的機能等の教育を常実施している。教育の基本姿勢については、組織として「期待する職員像」を明確にして、職員一人ひとりの目標管理の仕組み、(目標の設定・項目・水準等)を構築されつつあるので、次年度以降の取り組みに期待する。</p>		

8 施設の運営

(1) 運営理念、基本方針の確立と周知	第三者 評価結果
① 法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	a
② 法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	a
③ 運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
④ 運営理念や基本方針を子どもや保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定	
① 施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	c
② 各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	c
③ 事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	c
④ 事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
⑤ 事業計画を子ども等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 運営理念・基本理念は、パンフレットやインターネットで、また、「学園要覧」で的確に明文化されている。理念や方針が、子どもや保護者に理解を得られるよう、あらゆる機会をとらえて積極的に周知されたい。 「中・長期計画」の策定は、県立施設のため施設独自では難があり、県庁と協議され「中・長期的なビジョンと計画」の策定を図られたい。</p>	

(3) 施設長の責任とリーダーシップ	第三者 評価結果
① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	a
② 施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	b
③ 施設長は、支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	a
④ 施設長は、施設の経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	a
(4) 経営状況の把握	
① 施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	b
② 運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	b
③ 外部監査（外部の専門家による監査）を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 施設長として、「学園要覧」で、自らの役割・責任を明確にしている。全職員に対して、指導力の向上を重点課題として「児童自立支援施設とは何をするとするか」「子どもたちにどんな力をつけさせたいか」等について、指導の原点に戻って、《子どもの幸せ》に繋がる支援のあり方を追求されている。遵守すべき法令等のリスト化にも取り組まれない。施設運営環境については、全国あるいは東海北陸ブロック協議会等で把握されているが、職員も運営状況での課題発見や改善に取り組まれるよう、更なる施設長のリーダーシップを期待したい。</p>	

(5) 人事管理の体制整備	第三者 評価結果
① 施設が目標とする支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	b
② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。	a
③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。	a
④ 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。	a
(6) 実習生の受入れ	
① 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>人事考課・就業状況把握・福利厚生等の仕組みは、構築されていて、これらを含む体制整備について、施設長の年2回個別面談で把握されている。実習者の受け入れは、施設の性格上難しいかもしれないが、福祉人材の育成のために実施を検討されたい。</p>	

(7) 標準的な実施方法の確立	第三者 評価結果
① 支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	c
② 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを組織的に実施できるよう仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	c
(8) 評価と改善の取組	
① 施設運営や支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	b
② 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>自己評価は、平成25年度も実施されているが、今後は評価の結果分析・課題の明確化の取り組みを期待する。支援についての標準化はされていない。標準化は職員の経験の差で、違いによる「支援」の水準や内容の差異を極力なくし、一定の水準、内容を常に実現することを目指しており、Plan（計画）、Do（行動）、Check（確認）、Action（改善・処置）のPDCA手法を取り入れられて標準化を期待する。なお、全国児童自立支援施設協議会で標準的な支援方法について、現在検討中とのことなので、策定後、当施設で取り入れられたい。</p>	